

令和6年5月23日

「熊本県地域在住高齢者における基本チェックリストが身体機能や介護予防介入効果に与える影響」について

熊本地域リハビリテーション支援協議会では、熊本県の運動器機能評価事業を行っています。この事業は、介護予防の取組効果検証を目的として、熊本県内の高齢者の標準的な体力を共通した方法で測定しデータ収集する運動器機能評価システムを運用しておりデータ分析を行っています。今回、運動器機能評価システムで収集されたデータを二次利用します。この際、国が定めた倫理指針では「必ずしも対象者の方お一人ずつから直接同意を得る必要はありませんが、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を通知または公開し、さらに可能な限り拒否の機会を保障することが必要」とされており、このような手法を「オプトアウト」といいます。そこで、下記の研究概要における「3. 研究対象」に該当する方でご自身のデータが使用されることを望まない場合やご不明な点がございましたら、「6. お問い合わせ先」までお知らせいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. 研究課題

熊本県地域在住高齢者における基本チェックリストが身体機能や介護予防介入効果に与える影響*

*この研究は、九州看護福祉大学の倫理委員会で人権擁護の面を含めその倫理性について検討し承認されています。

2. 研究目的

加齢に伴う身体機能の低下は、日常生活活動能力の低下を招き、要介護発生のリスクを増大させる要因とされています。わが国の介護予防において、基本チェックリストを使用してハイリスク者をスクリーニングし、それぞれの低下項目に関連した介入を実施していることが多い状況です。しかし、身体機能は認知機能や閉じこもりなどの精神機能や社会参加との関連も示されており、基本チェックリストの下位項目が身体機能とどのように関連しているかは不明です。また基本チェックリストの得点によって介入効果に違いが出る可能性があります。本研究では、熊本地域リハビリテーション支援協議会を中心に実施されている運動器機能評価事業のデータを集約し、基本チェックリストと身体機能の関連性および

び介入効果の検証することです。

3. 研究対象

2023年1月1日から12月31日までに熊本県運動器機能評価事業において身体機能等を測定した方のうち、65歳以上で要介護認定を受けていない方を対象としています。

4. 研究方法

介護予防介入前の基本チェックリストや身体機能のデータを使用し関連性を調査します。また介入前後のデータを比較し、改善の度合いと基本チェックリストとの関連性も調査します。

・主要評価項目

介入前の基本チェックリストと介入前後の握力、5m歩行速度(通常、最大)、開眼片脚立位、Time up and go test(TUG)

・副次的評価項目

年齢、性別、介入前後の簡易栄養状態評価表(Mini Nutritional Assessment-Short Form:MNA-SF)と認知機能評価(SWEET16)

5. 個人情報の保護

氏名等の個人を特定できる情報は、分析用データには含めれておらず、厳重に管理されています。また、研究結果は対象集団の統計データとして報告されるため、研究成果を学会または学術雑誌で発表する場合も個人情報が公開されることはありません。

6. お問い合わせ先

〒865-0062 熊本県玉名市富尾 888

九州看護福祉大学 看護福祉学部 リハビリテーション学科

谷口 善昭

電話:0968-75-1800

お問い合わせ時間:平日 9時30分~17時30分